



# MELニュース

(2018年8月 第5号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会  
事務局

太平洋高気圧とチベット高気圧の二重の熱気に覆われたと気象解説された日本列島は、「危険な暑さ」と迷惑台風に振り回されながらとうとう旧盆を過ぎました。このまま行けば観測史上最も暑かった夏として名を残すことになるでしょう。2年後のオリパラへの懸念も持ち上がっています。

俗に、夏は暑く冬は寒い方が水産物はよく売れると譬えられますが、「過ぎたるは及ばざるがごとし」でしょうか、残念ながらこの夏の魚の売れ行きは生ものを中心に芳しくなかったと報じられています。

一日も早く気象も魚況も落ち着き、皆様のお仕事に勢いが出てくることを祈っております。

## 1. 理事会の開催について

8月1日に第11回の理事会を開催しました。

議題は諸規程の修正が提案され

- ① 漁業認証において、認証申請者を漁業関係者に絞る。
- ② 将来の審査員の不足に備え、審査員研修および育成を通して、MEL協議会が認める他の認証スキーム審査経験を持つ人材の登用を可能にする。
- ③ ロゴマーク使用・管理規程において、ロゴマーク付き商品の流通実態把握のため年次審査の際に生産数量とロゴマーク貼付の報告をお願いする。
- ④ 人事に於いて、事務局長は前任の西村が退職した後空席となっていました。専務理事の長岡が兼務する。

### 事務局構成

	管理部長 (須藤佳澄)
事務局長 (長岡専務理事兼務)	技術部長 (田村實)
	事務局員 (江尻敦子)

- ⑤ 認証機関の複数化については、考え方について既に報告済みであり、またホームページ上で募集も行っていますが、(公財)海洋生物環境研究所(海生研)より申請がありましたので、対応を事務局に一任いただく。

\* 「海生研」は発電所の排水の環境への影響を科学的に解明するため、環境庁、農水

省、通産省(当時)共管の機関として 1975 年に設立されました。中央研究所と実証実験場を持ち、研究者 50 名、技術系職員 4 名を抱える技術に強い団体で、気候へ変動による海洋環境、水産物への影響の調査や福島原発事故の影響調査、水産物の放射能調査を東北全般で行っている。

今回、海生研からは養殖認証分野で取り組みたいとの意思表示があり、審査員になりたい希望者が組織内の多くいるとの報告を受けております。

が承認されました。

報告事項では、漁業認証の審査シートにプレアセスメントでの GSSI からの指摘に対応して

- ① 管理体制に関し科学的根拠のデータが FAO のガイドライン等の国際基準に沿うことを明記する。
- ② 生態系への配慮において、非対象魚種、希少魚種および生態系への悪影響に関して「管理目標およびアウトカム（成果）指標（非対象種、希少種の混獲のデータの把握）」を行う。

上記 2 点の規格委員会決定が報告されました。②はどうにもしっくりしない表現となっていますが、胆となる規定でもありますので、審査員の講習会における徹底、また各地にお邪魔したときに説明をさせていただき、実態が正しく運用されることを期したいと思います。

## 2. GSSI との承認申請に関する契約（Benchmark Agreement）締結

GSSI とは月 2 回のペースで TV 会議を行っていますが、7 月 31 日の会議で MEL の承認申請に関する契約（Benchmark Agreement）を締結、画像データにて交換を行いました。この契約は審査の手順、タイムライン、費用等についてお互いに約束する内容であり、審査の開始日が確定した他、審査を担当する GSSI 側の審査員（Independent Expert）も順次決まり始めました。

MEL 側としては、漁業認証および流通加工認証に係る詳細の部分の修正、補強を継続しながら、養殖認証規格については今月よりプレアセスメントに入ります。また、審査機関の JAB 認定取得も GSSI への申請のために欠かせない要件でありますので、JAB、日水資と進捗を確認しながら取り進めています。

まだまだ申請まで膨大な事務作業がありますが、事務局、専門部会（東京大学、東京海洋大学）他のチームワークで完成度の高い申請書をつくる様粛々と進めます。蛇足ながら、GSSI への申請書は、単なる申請書と言うより、GSSI の要求する 1 項目ごとに申請者である MEL の認証スキームの状況とその証拠の所在を示し、GSSI の審査員（Independent Expert）が審査の際

に使える審査シートの役割を兼ね備えている詳細の内容を持つものです。それだけに、申請書の不備は審査の進捗に直結するもので、欧米ではコンサルタントが幅を利かせている領域でもあります。

MEL も当然ながら手順や用語のチェック等コンサルの支援を受けておりますが、何より自らの業務執行能力が試されています

### 3. アドバイザリーボード開催

MEL のアドバイザリーボードの第 1 回会合を 8 月 6 日に開催しました。第 1 回でもあり MEL の現状のご報告と、認証規格、審査シートの課題の説明の後メンバーの皆様から広範にわたるご意見をいただきました。

ご意見について特記すべきポイントは

- MEL が日本の漁業、養殖、流通加工を対象にするなら、基準を無理して国際標準に合わせる必要があるのか？ 日本の現実から見て、きわめてハードルが高いと思われる。例えば、MSY の問題についても行政の水準設定と国際標準との間に不一致が生まれないか？
- MEL の規格が、たとえ良いモノでも国際的基準に合わないという理由で承認されない可能性が出てくる。国際的な基準は資源にフォーカスしているが、日本の漁業や魚食に関する文化や歴史をどう評価されるかが課題。
- 旧規格と新規格が混在している現状では残念ながら透明性を欠く。
- 一日も早く現在の MEL が全く生まれ変わった組織であり、その目指すところと実際の行動を社会に示すことが必要。
- そしてオリパラの食材調達への対応と言うより、2020 東京オリパラのレガシーとして水産物の持続的利用を日本の社会に定着させることを目指して欲しい。

であり、一つ一つが鋭く胸に迫りました。現在の執行部には旧 MEL のメンバーは一人もおらず、全くの新組織として変革に取り組んでいるにもかかわらず、社会からは必ずしも前向きと見られていないことを深刻に受け止め、実績顕在化を意識します。

現在のアドバイザリーボードのメンバー

氏名	所属	備考
松田 裕之	横浜国立大学教授	アドバイザリー ボード座長
板垣 信幸	経済ジャーナリスト (元NHK解説主幹)	
勝川 俊雄	東京海洋大学准教授	
白石 ユリ子	ウーマンズフォーラム魚代表	

平野 祐子	主婦連合会 副会長	
-------	-----------	--

#### 4. オリパラ選手村内における飲食提供業務委託事業者の選定

理事会において、出席いただいた水産庁の浜辺係長より 2020 オリパラ組織委員会が発表した「選手村内における飲食提供業務委託事業者の選定について」次のような説明がありました。内容はホームページに公表されておりますが、

##### ◆ 委託の概要

##### (1) 件名

東京2020大会における選手村内選手及び選手団等に対する  
飲食提供業務委託

##### (2) 主な委託内容

選手村内メインダイニング、カジュアルダイニング、クラブ&ゴー及び  
スタッフダイニング等における飲食提供業務を大量調理の実績がある  
事業者に委託

##### (3) 予定契約期間

2018年10月～2020年12月

##### (4) 予定調達方式

一般競争入札（総合評価方式）

##### (5) 主な配慮事項

- ①カジュアルダイニングを中心とした日本の食文化の発信
- ②宗教（ハラル等）、食習慣等の多様性への配慮
- ③衛生管理の徹底による食中毒の未然防止
- ④スポーツ栄養に基づく食事の提供

	メインダイニング	カジュアルダイニング	クラブ&ゴー	スタッフダイニング
提供内容	・選手団へ飲食を無償提供する拠点 ・過去大会と同等レベルの食事を提供	・日本食や地域特産物を活用した食事の提供	・時間の無い選手及び選手団役員がテイクアウトできる軽食等を提供	・現場調理したホットミールを提供（スタッフの多様な食習慣にも配慮）
設置エリア	居住ゾーン	居住ゾーン	居住ゾーン	居住ゾーン
主要な利用者	各国地域選手及び選手団	各国地域選手及び選手団	各国地域選手及び選手団	スタッフ
席数	4,500席	400席	-	800席
1日最大食数想定	45,000食/日	3,000食/日	1,500食/日	10,000食/日
オープン時間（想定）	24時間	午前6時～午後9時	午前7時～午後2時 （競技スケジュールに合わせ、柔軟に対応）	朝食、昼食、夕食、深夜食に時間帯を分けてオープン

◆ 委託事業者の選定スケジュール

NO	項目	期間等（予定）
1	案件公示	8月3日
2	入札説明会の実施	8月10日
3	企画提案等受付期間	8月28日から9月18日まで
4	企画提案審査	9月19日から9月20日まで
5	審査結果通知（候補事業者の決定）	9月21日
6	最終審査	9月25日から10月1日
7	審査結果通知	10月初旬までに通知
8	本契約の締結	10月末頃

◆ 選手村内における主な飲食提供

既に組織委員会において国産品優先採用が決まっており、今回の発表でも念を押されておりますが、この機会に認証取得事業者の期待にお応えするためにも、日本発の世界に認められるエコラベルの付いた水産品が選手村の中だけでなく、外の一般飲食を含めて高い評価をいただけることを願っています。MELは、事業者にとってオリパラ開会まで1年以上の準備期間が確保出来る様 GSSI の承認取得を 2019 年春を目標に進めており、皆様に「日本発の世界に認められる MEL」を活用していただける様一緒に頑張ります。

MEL の認証付き食材の納入は、生産段階認証を取得した事業者と流通加工認証（CoC）取得事業者の組合せで実現することになりますが、メニューに MEL のロゴマークを表示するためには業務委託を受けた事業者も同様に CoC 認証の取得が必要になります。

面倒なことではありますが、東京 2020 大会のレガシーとして、日本発のエコラベルのロゴマークつきの水産物が社会に認知されることを実現するためにご理解を賜りたいと思います。

5. コンサルティング

MEL 認証取得希望者に対するコンサルティングにつきましては、第3号でご案内しましたとおり、水産庁の補助事行として三洋テクノマリン（株）が実施するプロジェクトですが、7月末現在でまだ4件の枠が残っていると

の情報であります。せっかくの機会ですので、希望される方がありましたら三洋テクノマリン社にコンタクト下さい。コンタクト先は第3号に記載しております。

## 6. ジャパン・インターナショナル・シーフードショー開催

今年のシーフードショーは、今週 22 (水) ~24 日 (金) に東京ビッグサイトで開催されます。会場は東5、6ホールで、MEL も出展します。

MEL ブースには、漁業および流通加工認証を取得されている焼津の(株)高橋商店様が MEL ラベル付きの一本釣りカツオの商品を展示される予定です。

また、22日(水)15:00~16:45 セミナー会場Cにおいて、大日本水産会が主催の水産エコラベル取得のための講習会が開催されます。MEL と日水資が講師をつとめます。

皆様のご参加をお待ちしております。

まだまだ暑さがおさまる気配を見せていません。でも、気が付けば蝉時雨もミンミン蝉からツクツクボウシに変わっています。秋本番に向けて様々な準備が求められる時期に入りました。皆様には充分にご自愛の上ご活躍されますことを心からお祈り申し上げます。

以上